

## 第Ⅷ期 事業報告書

2017年6月1日～2018年5月31日

当法人の活動目的は、人と動物が良きパートナーとして、共に幸せに暮らせる社会を作っていくことである。そのために、以下3つの活動を行い、また当法人の組織基盤の強化も図りながら、日本の動物福祉を世界トップレベルまで引き上げていくことを目指す。

なお、②及び③については第7期において変更認定申請を行い、認定を受けた。

- ① 動物福祉活動に従事する非営利法人に対して寄付支援を中心とする活動支援
- ② 動物福祉に対する考え方や情報を社会に発信していくセミナー等の企画運営
- ③ セミナー、WEB掲載等に活用するための情報リサーチ

### 1. 寄付支援事業

#### 【目的と意義】

2011年9月にカットオーバーされた「アニマル・ドネーション」を通じて、支援先団体と寄付者を結び付ける事業である。支援先団体としては、遺棄動物の保護団体や補助犬育成団体や動物愛護の精神を啓発する団体等を対象としている。これらの対象法人の活動資金源の過半は「寄付」である。寄付による支援活動を活性化させることにより、動物福祉の底上げを図ることを目的としている。また、誰もが気軽に寄付による支援が行えるオンラインでの寄付システムの提供や、企業等と協力した寄付の仕組みを提供することで、日本に寄付文化が定着していくことに貢献することも目的としている。

#### 1) 個人からの寄付支援事業

クレジットカードによるオンライン寄付システムを提供し、個人からの寄付を集め、支援先団体へ届ける事業。また、寄付金を募りやすい環境を作るために、支援先団体向けの活動支援や情報共有、勉強会運営、印刷物発行などを行う。寄付者に対しては、支援先団体の活動状況や、寄付金の使途、課題に対する情報などを、オンラインサイト内の記事やSNSなどを利用して提供する。

個人からの今期の寄付金額は、489万円、累計では、1,749万円となり、支援先団体数は2018年5月時点で17団体となっている。

#### 2) 企業団体からの寄付支援事業

企業の社会貢献として当法人と協働した寄付企画を立案し実行する事業。企業の扱う商品の一部が寄付となる商品開発や、企業と協働した寄付キャンペーンの企画立案を行う。日本においても、近年は社会への貢献のあり方が多様化し、寄付を行いたいという企業は多くある。その際に、企業が寄付活動に取り組みやすい環境を作るために、企画立案やコンサルティングを行う。

企業団体からの今期の寄付金額は、1,633万円、累計では、7,933万円となった。

### 2. セミナー等の企画運営事業

#### 【目的と意義】

犬や猫の動物飼養に対する正しい認知・知識を社会全体で持つことが、人も動物も暮らしやすい社会づくり、動物福祉の向上にとって重要である。特に、社会全体への発信力が大きいメディア関係者や動物飼養者との接点が多い動物事業関係者の認知・知識が底上げされていくことが重要と考える。

そこで、日本の動物福祉向上のキーパーソンとなっていく上記の業界関係者を対象とするセミナー等の開催を通じて、社会全体の認知・知識の向上を積極的に行っていく。

国内・海外の有識者をスピーカーに迎えてメディア関係者が動物飼養や動物福祉に関する歴史や正しい知識を持てるセミナーを開催する。また、動物事業関係者も交えて、現状の課題、ベストプラクティス等の情報を共有して共に学び合える機会を作っていく。

今期は、大学生、親子、犬の飼養者を対象にしたセミナーを開催した。

### 3. リサーチ事業

#### 【目的と意義】

動物福祉に関する多様な考え方や情報を共有していくことが、社会全体の関心を高め、業界全体がボトムアップしていくために重要である。そこで、国内・海外の事例の研究、専門家インタビュー等を通じて、動物福祉に関するナレッジを蓄積していく。

事例の研究に関しては、当法人のボランティアスタッフが書籍・WEBから情報を集めてまとめていく。

また、動物関係事業者や有識者へのインタビューや、関係者同士の勉強会も行いながら、業界が抱えている課題やベストプラクティスを学び合っていく。

そのようにして蓄積したナレッジは、セミナーで参加者に共有していき、また、当法人のサイト掲載を通じて広く社会に発信していく。

今期は、横浜商科大学と保護犬猫の飼養に関する共同研究を行い、セミナー・勉強会で報告共有した。

### 4. 管理事業

#### 【目的と意義】

当法人の目的や活動内容に理解・賛同をして、共に活動にしていだける方の拡大は、当法人の活動展開の上できわめて重要であり、活動の源となる。よって、当法人への会員になることで会費を提供いただく会員制度やボランティアという労力で活動を支える会員制度を設立し、活動規模を拡げる目的である。

#### 1) 賛助会員制度の導入

一口 3 千円からの個人賛助会員と一口 3 万円法人賛助会員を設ける。入会した賛助会員に向けては、会報誌の配布を通じた活動報告、毎月のメールマガジンの配布を行い、理解と関心を深めていただく施策を実施している

今期は、個人賛助会員 44 口、法人賛助会員 3 口を募った。

#### 2) スタッフの拡充

有償スタッフやボランティアスタッフを拡充し、組織運営の基盤強化を進めていく。活動内容は、会報誌の制作、SNSや当法人サイトを使っての情報発信、研究活動、寄付金管理業務の強化を実施した。

今期は、ボランティアスタッフを約 30 人体制としている。

#### 3) 外部アドバイザーリーボードの設置

法人運営の拡大や透明性を高めるために、動物学、経営学の有識者数名を外部アドバイザーに迎えて、「アニマル・ドネーション外部審議会」を設置する。年 1 回審議会を開催して、支援先団体の選定に関する審議や、当法人の運営についてアドバイスをもらった。

今期の審議会は、外部有識者 4 名、当法人の代表理事 1 名の合計 5 名で構成している。

### 5. 税額控除に係る証明申請

寄付者の皆様から頂いた寄付が税額控除の対象となるように、税額控除に係る証明の申請を行い、平成 30 年 5 月 29 日から平成 35 年 5 月 28 日までの期間の証明書を受けることができた。

以上

## 第Ⅸ期 事業報告書

2018年6月1日～2019年5月31日

当法人の活動目的は、人と動物が良きパートナーとして、共に幸せに暮らせる社会を作っていくことである。そのために、以下3つの活動を行い、また当法人の組織基盤の強化も図りながら、日本の動物福祉を世界トップレベルまで引き上げていくことを目指す。

- ① 動物福祉活動に従事する非営利法人に対して寄付支援を中心とする活動支援
- ② 動物福祉に対する考え方や情報を社会に発信していくセミナー等の企画運営
- ③ セミナー、WEB掲載等に活用するための情報リサーチ

### 1. 寄付支援事業

#### 【目的と意義】

2011年9月にカットオーバーされた「アニマル・ドネーション」を通じて、支援先団体と寄付者を結び付ける事業である。支援先団体としては、遺棄動物の保護団体や補助犬育成団体や動物愛護の精神を啓発する団体等を対象としている。これらの対象法人の活動資金源の過半は「寄付」である。寄付による支援活動を活性化させることにより、動物福祉の底上げを図ることを目的としている。また、誰しものが気軽に寄付による支援が行えるオンラインでの寄付システムの提供や、企業等と協力した寄付の仕組みを提供することで、日本に寄付文化が定着していくことに貢献することも目的としている。

9期、寄付の総額は1億円を超え、業界へのインパクトやサイトへの信頼性は増した。

#### 1) 個人からの寄付支援事業

クレジットカードによるオンライン寄付システムを提供し、個人からの寄付を集め、支援先団体へ届ける事業。また、寄付金を募りやすい環境を作るために、支援先団体向けの活動支援や情報共有、勉強会運営、印刷物発行などを行う。寄付者に対しては、支援先団体の活動状況や、寄付金の使途、課題に対する情報などを、オンラインサイト内の記事やSNSなどを利用して提供する。

個人からの今期の寄付金額は、613万円、累計では、2,362万円となり、支援先団体数は2019年5月時点で16団体（通算20団体）となっている。

また、2018年8月システム全面変更を実施。従来のクレジットカード決済方法に加え、利用者の利便性を検討しAmazonPayを導入した。また、口座振込寄付の受付を開始した。

そして、動物福祉や寄付に対して、一般の方々の興味注目を促すよう、直接寄付とは関係のない業種とコラボレーションを企画。映画「犬ヶ島」とのコラボレーションを映画公開時期に特別期間限定寄付企画を実施し、狙い通り日本の動物の現状をあまりよく知らない層からの寄付を約3カ月で約108万円を集めた。またアニドネ主催で写真とペットへの想いを綴ると1000円の寄付になる「STORY with PET企画」を実施。こちらは、約500投稿で50万円の寄付を実施した。

#### 2) 企業団体からの寄付支援事業

企業の社会貢献として当法人と協働した寄付企画を立案し実行する事業。企業の扱う商品の一部が寄付となる商品開発や、企業と協働した寄付キャンペーンの企画立案を行う。日本においても、近年は社会への貢献のあり方が多様化し、寄付を行いたいという企業は多くある。その際に、企業が寄付活動に取り組みやすい環境を作るために、企画立案やコンサルティングを行う。

企業団体からの今期の寄付金額は、1,510万円、累計では、9,443万円となった。

今期は事業撤退や縮小する企業が続く、企業寄付は約120万円減少した。

## 2. セミナー等の企画運営事業

### 【目的と意義】

犬や猫の動物飼養に対する正しい認知・知識を社会全体で持つことが、人も動物も暮らしやすい社会づくり、動物福祉の向上にとって重要である。特に、社会全体への発信力が大きいメディア関係者や動物飼養者との接点が多い動物事業関係者の認知・知識が底上げされていくことが重要と考える。

そこで、子供、学生、一般の方々などを対象とするセミナー等の開催を通じて、社会全体の認知・知識の向上を積極的に行っていく。内容は、動物飼養や動物福祉に関する歴史や正しい知識を学べ自身がどう行動すべきか、を考えられるセミナーとなっている。

今期は、大学生、親子、犬の飼養者を対象にしたセミナーを4回開催した。当初計画をしていた、遺贈寄付対象セミナーは、遺贈を考える層へのアプローチをより検討をした後に実施したほうが良いと判断し、今期は実施せず。来期への課題として残した。

◆日時:2018年7月23日 11:00-12:30

場所:日本福祉大学 美浜キャンパス 320大講義室

対象者:子ども発達学部 心理臨床学科 社会福祉論(1年生科目)

人数:1年生125名

テーマ「知ってみよう 動物の福祉について」

講師:糸ひとみ

◆日時:2018年11月27日 11:30-12:30

場所:新橋第一ホテル

対象者:新橋ロータリークラブ会員

人数:50名

テーマ「日本の動物福祉について」

講師:西平衣里

◆日時:2019年3月16日 13:30-15:30

場所:目黒会議室

対象者:クラブアニドネ

人数:10名

テーマ「日本と世界の動物福祉について」

講師:西平衣里

◆日時:2019年5月19日 13:30-15:30

場所:犬のようちえん 白金教室

人数:20名

テーマ「アニマル・ドネーションと5年後の未来を変える!」

講師:西平衣里

## 3. リサーチ事業

### 【目的と意義】

動物福祉に関する多様な考え方や情報を共有していくことが、社会全体の関心を高め、業界全体がボトムアップしていくために重要である。そこで、国内・海外の事例のリサーチ、専門家インタビュー等を通じて、動物福祉に関するナレッジを蓄積していく。

事例のリサーチに関しては、当法人のボランティアスタッフが書籍・WEBから情報を集めてまとめていく。

また、動物関係事業者や有識者へのインタビューや、関係者同士の勉強会も行いながら、業界が抱えている課題やベストプラクティスを学び合っていく。

そのようにして蓄積したナレッジは、セミナーで参加者に共有していき、また、当法人のサイト掲載を通じて広く社会に発信していく。

今期は、海外に実施に住み、各国の動物事情に直接触れた人物を探してインタビューを実施(スイス・ドイツ)。リアルな動物事情を記事にしてWEBサイトへ掲載した。

## 4. 管理事業

### 【目的と意義】

当法人の目的や活動内容に理解・賛同をして、共に活動にしていただける方の拡大は、当法人の活動展開の上できわめて重要であり、活動の源となる。よって、当法人への会員になることで会費を提供いただく会員制度やボランティアという労力で活動を支える会員制度を設立し、活動規模を拡げる目的である。

### 1) 賛助会員制度の導入

一口 3 千円からの個人賛助会員と一口 3 万円法人賛助会員を設ける。入会した賛助会員に向けては、会報誌の配布を通じた活動報告、毎月のメールマガジンの配布を行い、理解と関心を深めていただく施策を実施している

今期は、個人賛助会員 34 口・法人賛助会員 1 口・正会員 1 口、合計 18 万 2,000 円を募った。

### 2) スタッフの拡充

有償スタッフやボランティアスタッフを拡充し、組織運営の基盤強化を進めていく。活動内容は、会報誌の制作、SNSや当法人サイトを使っての情報発信、リサーチ活動、寄付金管理業務の強化を実施した。

今期は、ボランティアスタッフをさらに拡充し約 50 名弱体制としている。

### 3) 外部アドバイザーボードの設置

法人運営の拡大や透明性を高めるために、動物学、経営学の有識者数名を外部アドバイザーに迎えて、「アニマル・ドネーション外部審議会」を設置する。年 1 回審議会を開催して、支援先団体の選定に関する審議や、当法人の運営についてアドバイスをもらった。

今期の審議会は、外部有識者 4 名、当法人の代表理事 1 名の合計 5 名で構成している。

## 5. 税額控除に係る証明申請

寄付者の皆様から頂いた寄付が税額控除の対象となるように、税額控除に係る証明の申請を行い、平成 30 年 5 月 29 日から平成 35 年 5 月 28 日までの期間の証明書を受領し活動継続した。

以上

## 第X期 事業報告書

2019年6月1日～2020年5月31日

当法人の活動目的は、人と動物が良きパートナーとして、共に幸せに暮らせる社会を作っていくことである。そのために、以下3つの活動を行い、また当法人の組織基盤の強化も図りながら、日本の動物福祉を世界トップレベルまで引き上げていくことを目指す。

- ① 動物福祉活動に従事する非営利法人に対して寄付支援を中心とする活動支援
- ② 動物福祉に対する考え方や情報を社会に発信していくセミナー等の企画運営
- ③ セミナー、WEB掲載等に活用するための情報リサーチ

### 1. 寄付支援事業

#### 【目的と意義】

2011年9月にカットオーバーされた「アニマル・ドネーション」を通じて、支援先団体と寄付者を結び付ける事業である。支援先団体としては、遺棄動物の保護団体や補助犬育成団体や動物愛護の精神を啓発する団体等を対象としている。これらの対象法人の活動資金源の過半は「寄付」である。寄付による支援活動を活発化させることにより、動物福祉の底上げを図ることを目的としている。また、誰しものが気軽に寄付による支援が行えるオンラインでの寄付システムの提供や、企業等と協力した寄付の仕組みを提供することで、日本に寄付文化が定着していくことに貢献することも目的としている。

10期終了後の寄付の総額は、約1億5000万円となりサイトへの信頼性は増した。

#### 1) 個人からの寄付支援事業

クレジットカードによるオンライン寄付システムを提供し、個人からの寄付を集め、支援先団体へ届ける事業。また、寄付金を募りやすい環境を作るために、支援先団体向けの活動支援や情報共有、勉強会運営、印刷物発行などを行う。寄付者に対しては、支援先団体の活動状況や、寄付金の使途、課題に対する情報などを、オンラインサイト内の記事やSNSなどを利用して提供する。

個人からの今期の寄付金額は1,414万円、累計では3,776万円となり、支援先団体数は2020年5月時点で20団体（通算24団体）となっている。

また、9期に行った決済システム全面変更を10期は更新し、寄付者がより使いやすいシステム構築を行った。またkintoneを導入し寄付管理システムを構築。寄付金をタイムリーに管理し支援先に正確に届ける仕組みを強化した。

2018年より活動を行っている遺贈寄付（アニドネレガシーギフト）に対しての問い合わせが増え、10期は2件の相続寄付をいただく。財産や相続金を動物のために利用し社会貢献を、という目的特化の遺贈寄付活動は、オンライン寄付サイトとは別の動きとして注視している。

2020年3月以降は新型コロナによって支援先団体の活動が困難になる緊急事態が発生。中間支援組織として、正しい情報収集・社会への提言・寄付活動（Yahoo! ネット募金等）をスピード感をもって実施。その結果、どの支援先団体も最悪の事態には至らず活動を続けられることができた。しかしながら、新型コロナによって、もともと抱える動物福祉問題（安易な飼育・多頭飼育崩壊・外猫の問題など）が顕著になってきている。その影響は、私共が支援する団体に対しても変容が求められている。

2020年4月に東京都港区版ふるさと納税制度の活用先のうち「公益的活動団体の支援」の対象団体に選定。

## 2) 企業団体からの寄付支援事業

企業の社会貢献として当法人と協働した寄付企画を立案し実行する事業。企業の扱う商品の一部が寄付となる商品開発や、企業と協働した寄付キャンペーンの企画立案を行う。日本においても、近年は社会への貢献のあり方が多様化し、寄付を行いたいという企業は多くある。その際に、企業が寄付活動に取り組みやすい環境を作るために、企画立案やコンサルティングを行う。

企業団体からの今期の寄付金額は、1,670万円、累計では、11,113万円となった。  
今期の企業寄付は、前期よりも約160万円増加した。

2019年6月Amazonの「動物保護施設 支援プログラム」の立ち上げに際し、施設の選定・審査で当法人が協力。日本の動物福祉分野を変革しようとする大手企業の社会活動の一助を担う。他には映画「駅までの道をおしえて」の制作段階からの助言・協働、2月22日（猫の日）限定のテレビ東京とのコラボ寄付など、企業とコラボしながら社会貢献を実施、成果を得る。

## 2. セミナー等の企画運営事業

### 【目的と意義】

犬や猫の動物飼養に対する正しい認知・知識を社会全体で持つことが、人も動物も暮らしやすい社会づくり、動物福祉の向上にとって重要である。特に、社会全体への発信力が大きいメディア関係者や動物飼養者との接点が多い動物事業関係者の認知・知識が底上げされていくことが重要と考える。

そこで、子供、学生、一般の方々などを対象とするセミナー等の開催を通じて、社会全体の認知・知識の向上を積極的に行っていく。内容は、動物飼養や動物福祉に関する歴史や正しい知識を学べ、自身がどう行動すべきか、を考えられるセミナーとなっている。

◆日時:7月20日 11:00-12:30

場所:日本福祉大学 美浜キャンパス 320大講義室

対象者:子ども発達学部 心理臨床学科

社会福祉論(1年生科目)

1年生は80-90名

2、3、4年生は合わせて10名程度

当日は合計約100名の講義

テーマ『知ってみよう 動物の福祉について』

講師:糸ひとみ

◆日時:2019年10月3日 16:00-18:00

場所:目黒会議室

対象者:クラブアニドネ

人数:4名

テーマ「日本と世界の動物福祉について」

講師:西平衣里

◆日時:2019年11月30日 16:00-18:00

場所:渋谷会議室

対象者:クラブアニドネ

人数:7名

テーマ「日本と世界の動物福祉について」

講師:西平衣里

## 3. リサーチ事業

### 【目的と意義】

動物福祉に関する多様な考え方や情報を共有していくことが、社会全体の関心を高め、業界全体がボトムアップしていくために重要である。そこで、国内・海外の事例のリサーチ、専門家インタビュー等を通じて、動物福祉に関するナレッジを蓄積し、情報開示を行っている。業界が抱えている課題やベストプラクティスを学び合っていく。

10 期は、海外に住み、各国の動物事情に直接触れた人物を探してインタビューを実施（インド・ドバイ）。記事を作成しながら各国の法律や問題点等リサーチ。国によって全く異なる動物観を知ることによって日本の進むべき方向性を調査した。

また、昨今「殺処分ゼロ」を掲げ、さまざまな努力や工夫を重ねる行政施設（動物愛護センターなど）が増えてきている。ただ、その施設の意義や意味は広く一般の方まで知られている状況には至っていない。よって当法人で取材をし魅力を伝えることで広く情報を伝えた（神奈川県・札幌・旭川など）。

## 4. 管理事業

### 【目的と意義】

当法人の目的や活動内容に理解・賛同をして、共に活動にしていだける方の拡大は、当法人の活動展開の上できわめて重要であり、活動の源となる。よって、当法人への会員になることで会費を提供いただく会員制度やボランティアという労力で活動を支える会員制度を設立し、活動規模を拡げる目的である。

### 1) 賛助会員制度

一口3千円からの個人賛助会員と一口3万円の法人賛助会員を設けている。入会した賛助会員に向けては、会報誌の配布を通じた活動報告、毎月のメールマガジンの配布を行い、理解と関心を深めていただく施策を実施している。

今期は、個人賛助会員30口・法人賛助会員12口、合計45万円を募った。

### 2) スタッフの拡充

有償スタッフやボランティアスタッフを拡充し、組織運営の基盤強化を進めていく。活動内容は、会報誌の制作、SNSや当法人サイトを使つての情報発信、リサーチ活動、寄付金管理業務の強化を実施した。

今期は、ボランティアスタッフをさらに拡充し約55名体制としている。

### 3) 外部アドバイザリーボード

法人運営の拡大や透明性を高めるために、動物学、経営学等の有識者数名を外部アドバイザーに迎えて、「審議委員会」を設けている。年1回審議会を開催して、支援先団体の選定に関する審議や、当法人の運営についてアドバイスをもらった。

今期の審議会は、外部有識者4名、当法人の代表理事1名の合計5名で構成している。2019年6月に審議委員会を実施。

## 5. 税額控除に係る証明申請

寄付者の皆様から頂いた寄付が税額控除の対象となるように、税額控除に係る証明の申請を行い、平成30年5月29日から令和5年5月28日までの期間の証明書を受領し活動継続した。

以上



# 決 算 報 告 書

(第 8 期)

自 平成29年6月1日  
至 平成30年5月31日

公益社団法人アニマル・ドネーション

# 貸借対照表

平成30年 5月31日現在

公益社団法人アニマル・ドネーション

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	353,297	2,741,290	-2,387,993
流動資産合計	353,297	2,741,290	-2,387,993
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
医療積立預金	0	3,258,699	-3,258,699
認定団体支援準備金	1,000,000	1,000,000	0
情報管理及びリレーション活動準備金	21,427	1,400,000	-1,378,573
WEBサイト構築準備金	2,160,000	0	2,160,000
特定資産合計	3,181,427	5,658,699	-2,477,272
固定資産合計	3,181,427	5,658,699	-2,477,272
資産合計	3,534,724	8,399,989	-4,865,265
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	314,607	1,670,110	-1,355,503
預り金	36,390	22,970	13,420
流動負債合計	350,997	1,693,080	-1,342,083
2. 固定負債			
長期借入金	0	705,106	-705,106
固定負債合計	0	705,106	-705,106
負債合計	350,997	2,398,186	-2,047,189
III 正味財産の部			
1. 基金			
基金	0	0	0
2. 指定正味財産			
寄付金	0	3,258,699	-3,258,699
指定正味財産合計	0	3,258,699	-3,258,699
(うち特定資産への充当額)	0	3,258,699	-3,258,699
3. 一般正味財産			
(1) 代替基金	0	0	0
(2) その他一般正味財産	3,183,727	2,743,104	440,623
一般正味財産合計	3,183,727	2,743,104	440,623
正味財産合計	3,183,727	6,001,803	-2,818,076
負債及び正味財産合計	3,534,724	8,399,989	-4,865,265

# 正味財産増減計算書

平成29年 6月 1日から平成30年 5月31日まで

公益社団法人アニマル・ドネーション

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	222,000	87,000	135,000
賛助会員受取会費	222,000	87,000	135,000
事業収益	678,897	710,738	-31,841
寄付支援事業収益	605,897	566,106	39,791
セミナー事業収益	73,000	144,632	-71,632
受取寄付金	24,476,424	18,217,411	6,259,013
受取寄付金	24,476,424	18,217,411	6,259,013
雑収益	105	62	43
受取利息	105	62	43
経常収益計	25,377,426	19,015,211	6,362,215
(2) 経常費用			
事業費	22,977,706	14,346,336	8,631,370
会議費	881,725	296,042	585,683
旅費交通費	739,875	232,957	506,918
通信運搬費	233,061	39,959	193,102
広告宣伝費	785,146	1,271,010	-485,864
消耗品費	323,714	272,672	51,042
保険料	17,000	0	17,000
租税公課	0	1,000	-1,000
支払寄付金	19,287,591	10,708,316	8,579,275
支払報酬	119,040	540,000	-420,960
委託費	0	524,440	-524,440
支払手数料	566,224	428,160	138,064
雑費	24,330	29,700	-5,370
諸会費	0	2,080	-2,080
管理費	1,959,090	2,275,312	-316,222
会議費	7,433	32,242	-24,809
旅費交通費	22,200	8,870	13,330
通信運搬費	815,669	1,286,936	-471,267
広告宣伝費	0	42,768	-42,768
消耗品費	37,574	189,724	-152,150
地代家賃	123,692	116,268	7,424
保険料	0	25,000	-25,000
租税公課	5,400	0	5,400
支払報酬	822,600	324,000	498,600
委託費	60,000	75,600	-15,600
支払手数料	64,522	81,432	-16,910
雑費	0	92,472	-92,472
経常費用計	24,936,796	16,621,648	8,315,148
評価損益等調整前当期経常増減額	440,630	2,393,563	-1,952,933
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	440,630	2,393,563	-1,952,933
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	440,630	2,393,563	-1,952,933
法人税、住民税及び事業税	7	0	7
当期一般正味財産増減額	440,623	2,393,563	-1,952,940
一般正味財産期首残高	2,743,104	349,541	2,393,563
一般正味財産期末残高	3,183,727	2,743,104	440,623
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	6,046,052	6,000,000	46,052
受取寄付金	6,046,052	6,000,000	46,052
一般正味財産への振替額	-9,304,751	-5,541,305	-3,763,446
一般正味財産への振替額	-9,304,751	-5,541,305	-3,763,446
当期指定正味財産増減額	-3,258,699	458,695	-3,717,394
指定正味財産期首残高	3,258,699	2,800,004	458,695
指定正味財産期末残高	0	3,258,699	-3,258,699
III 基金増減の部			
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	0	0	0
基金期末残高	0	0	0
IV 正味財産期末残高	3,183,727	6,001,803	-2,818,076

# 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表に対する注記に記載している。
2. 引当金の明細  
該当事項なし

# 財務諸表に対する注記

## 1. 重要な会計方針

### (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

## 2. 基本財産及び特定資産の増減額及び残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
医療積立預金	3,258,699	6,046,052	9,304,751	0
認定団体支援準備金	1,000,000	0	0	1,000,000
情報管理及びリレーション活動準備金	1,400,000	0	1,378,573	21,427
WEBサイト構築準備金	0	2,160,000	0	2,160,000
合 計	5,658,699	8,206,052	10,683,324	3,181,427

## 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定 正味財産から の充当額)	(うち一般 正味財産から の充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
認定団体支援準備金	1,000,000	0	1,000,000	0
情報管理及びリレーション活動準備金	21,427	0	21,427	0
WEBサイト構築準備金	2,160,000	0	2,160,000	0
合 計	3,181,427	0	3,181,427	0

## 4. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
受取寄付金計上による振替額	9,304,751
合 計	9,304,751

# 財産目録

平成30年 5月31日現在

公益社団法人アニマル・ドネーション

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>				
	現金	手元保管	運転資金として	36,831
	預金	普通預金		316,466
		三井住友銀行広尾支店		265,341
		ジャパンネット銀行		50,125
		ゆうちょ銀行		1,000
<b>流動資産合計</b>				<b>353,297</b>
<b>(固定資産)</b>				
<b>特定資産</b>				
	認定団体支援準備金	ジャパンネット銀行		1,000,000
	情報管理及びリレーション活動準備金	三井住友銀行広尾支店		21,427
	WEBサイト構築準備金	ジャパンネット銀行		2,160,000
<b>固定資産合計</b>				<b>3,181,427</b>
<b>資産合計</b>				<b>3,534,724</b>
<b>(流動負債)</b>				
	未払金			314,607
	山本和子		テレフォン代	30,000
	小田亮子		COPY代	20,000
	尾崎絵里		英訳代	10,000
	(株)Sabeevo		広告費用	108,000
	未精算経費			146,607
	預り金			36,390
	源泉所得税			36,390
<b>流動負債合計</b>				<b>350,997</b>
<b>負債合計</b>				<b>350,997</b>
<b>正味財産</b>				<b>3,183,727</b>

# 決 算 報 告 書

(第9期)

自 平成30年6月1日  
至 令和元年5月31日

公益社団法人アニマル・ドネーション

# 貸借対照表

令和元年 5月31日現在

公益社団法人アニマル・ドネーション

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金	36,831	36,831	0
普通預金	757,250	316,466	440,784
流動資産合計	794,081	353,297	440,784
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
医療積立預金	2,948,173	0	2,948,173
認定団体支援準備金	0	1,000,000	-1,000,000
情報管理及びリレーション活動準備金	0	21,427	-21,427
WEBサイト構築準備金	387,600	2,160,000	-1,772,400
情報管理システム構築計画積立預金	200,000	0	200,000
WEBサイト再構築積立預金	800,000	0	800,000
特定資産合計	4,335,773	3,181,427	1,154,346
固定資産合計	4,335,773	3,181,427	1,154,346
資産合計	5,129,854	3,534,724	1,595,130
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	849,344	314,607	534,737
預り金	37,921	36,390	1,531
流動負債合計	887,265	350,997	536,268
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	887,265	350,997	536,268
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 基金			
基金	0	0	0
2. 指定正味財産			
寄付金	2,948,173	0	2,948,173
指定正味財産合計	2,948,173	0	2,948,173
(うち特定資産への充当額)	2,948,173	0	2,948,173
3. 一般正味財産			
(1) 代替基金	0	0	0
(2) その他一般正味財産	1,294,416	3,183,727	-1,889,311
一般正味財産合計	1,294,416	3,183,727	-1,889,311
(うち特定資産への充当額)	1,294,416	3,181,427	-1,887,011
正味財産合計	4,242,589	3,183,727	1,058,862
負債及び正味財産合計	5,129,854	3,534,724	1,595,130



# 正味財産増減計算書

平成30年 6月 1日から令和元年 5月31日まで

公益社団法人アニマル・ドネーション

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	182,000	222,000	-40,000
正会員受取会費	50,000	0	50,000
賛助会員受取会費	132,000	222,000	-90,000
事業収益	561,260	678,897	-117,637
寄付支援事業収益	388,800	605,897	-217,097
セミナー事業収益	50,000	73,000	-23,000
リサーチ事業収益	122,460	0	122,460
受取寄付金	18,284,507	24,476,424	-6,191,917
受取寄付金	15,229,680	15,171,673	58,007
受取寄付金振替額	3,054,827	9,304,751	-6,249,924
雑収益	55	105	-50
受取利息	55	105	-50
経常収益計	19,027,822	25,377,426	-6,349,604
(2) 経常費用			
事業費	17,460,126	22,977,706	-5,517,580
会議費	359,715	881,725	-522,010
旅費交通費	815,580	739,875	75,705
通信運搬費	293,056	233,061	59,995
広告宣伝費	2,308,936	785,146	1,523,790
消耗品費	284,556	323,714	-39,158
保険料	22,500	17,000	5,500
租税公課	400	0	400
支払寄付金	12,596,294	19,287,591	-6,691,297
支払報酬	27,000	119,040	-92,040
委託費	14,040	0	14,040
支払手数料	738,049	566,224	171,825
雑費	0	24,330	-24,330
管理費	3,457,007	1,959,090	1,497,917
会議費	145,757	7,433	138,324
旅費交通費	40,876	22,200	18,676
通信運搬費	319,771	815,669	-495,898
消耗品費	134,591	37,574	97,017
地代家賃	206,958	123,692	83,266
保険料	0	0	0
租税公課	500	5,400	-4,900
支払報酬	988,800	822,600	166,200
委託費	1,370,000	60,000	1,310,000
支払手数料	213,790	64,522	149,268
雑費	35,964	0	35,964
経常費用計	20,917,133	24,936,796	-4,019,663
評価損益等調整前当期経常増減額	-1,889,311	440,630	-2,329,941
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	-1,889,311	440,630	-2,329,941
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	-1,889,311	440,630	-2,329,941
法人税、住民税及び事業税	0	7	-7
当期一般正味財産増減額	-1,889,311	440,623	-2,329,934
一般正味財産期首残高	3,183,727	2,743,104	440,623
一般正味財産期末残高	1,294,416	3,183,727	-1,889,311
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	6,003,000	6,046,052	-43,052
受取寄付金	6,003,000	6,046,052	-43,052
一般正味財産への振替額	-3,054,827	-9,304,751	6,249,924
一般正味財産への振替額	-3,054,827	-9,304,751	6,249,924
当期指定正味財産増減額	2,948,173	-3,258,699	6,206,872
指定正味財産期首残高	0	3,258,699	-3,258,699
指定正味財産期末残高	2,948,173	0	2,948,173
III 基金増減の部			
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	0	0	0
基金期末残高	0	0	0
IV 正味財産期末残高	4,242,589	3,183,727	1,058,862

# 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表に対する注記に記載している。
2. 引当金の明細  
該当事項なし

# 財務諸表に対する注記

## 1. 重要な会計方針

- (1) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

## 2. 基本財産及び特定資産の増減額及び残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
医療積立預金	0	6,003,000	3,054,827	2,948,173
認定団体支援準備金	1,000,000	0	1,000,000	0
情報管理及びリレーション活動準備金	21,427	0	21,427	0
WEBサイト構築準備金	2,160,000	0	1,772,400	387,600
情報管理システム構築計画積立預金	0	200,000	0	200,000
WEBサイト再構築積立預金	0	800,000	0	800,000
合 計	3,181,427	7,003,000	5,848,654	4,335,773

## 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定 正味財産から の充当額)	(うち一般 正味財産から の充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
医療積立預金	2,948,173	2,948,173	0	0
WEBサイト構築準備金	387,600	0	294,416	93,184
情報管理システム構築計画積立預金	200,000	0	200,000	0
WEBサイト再構築積立預金	800,000	0	800,000	0
合 計	4,335,773	2,948,173	1,294,416	93,184

## 4. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
受取寄付金計上による振替額	3,054,827
合 計	3,054,827

# 財産目録

令和元年 5月31日現在

公益社団法人アニマル・ドネーション

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金	手元保管	運転資金として	36,831
	預金	普通預金		757,250
		三井住友銀行広尾支店		296,656
		ジャパンネット銀行		459,594
		ゆうちょ銀行		1,000
	流動資産合計			794,081
(固定資産)				
	特定資産			
	医療積立預金	ジャパンネット銀行	助成事業の積立資産である	2,948,173
	WEBサイト構築準備金	ジャパンネット銀行	助成事業の積立資産である	387,600
	情報管理システム構築計画積立預金	三井住友銀行広尾支店	助成事業の積立資産である	200,000
	WEBサイト再構築積立預金	三井住友銀行広尾支店	助成事業の積立資産である	800,000
	固定資産合計			4,335,773
	資産合計			5,129,854
(流動負債)				
	未払金			849,344
	(株)スリーリーフクローバー		サーバー利用代金	7,110
	(株)ゴーフォックス		サーバー運用保守	54,000
	(株)Sabeevo		サイト運用保守	27,600
	司法書士法人飯塚リーガルパートナーズ		規約作成	32,400
	(株)リンク		メール利用料	5,400
	(株)USEN ICT Solutions		Kintone利用料	9,720
	山本和子		広告等デジタルコミュニケーション代	30,000
	浅井暁子		営業事務委託費	38,884
	未精算交通費等			644,230
	預り金			37,921
	源泉所得税			37,921
	流動負債合計			887,265
	負債合計			887,265
	正味財産			4,242,589

# 決 算 報 告 書

(第 10 期)

自 令和1年6月1日  
至 令和2年5月31日

公益社団法人アニマル・ドネーション

# 貸借対照表

令和2年 5月31日現在

公益社団法人アニマル・ドネーション

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金	36,831	36,831	0
普通預金	208,717	757,250	-548,533
流動資産合計	245,548	794,081	-548,533
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
医療積立預金	1,008,480	2,948,173	-1,939,693
WEBサイト構築準備金	0	387,600	-387,600
情報管理システム構築計画積立預金	0	200,000	-200,000
WEBサイト再構築積立預金	245,646	800,000	-554,354
システム再構築積立預金	1,200,000	0	1,200,000
遺贈関連積立預金	400,000	0	400,000
特定資産合計	2,854,126	4,335,773	-1,481,647
固定資産合計	2,854,126	4,335,773	-1,481,647
資産合計	3,099,674	5,129,854	-2,030,180
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	363,105	849,344	-486,239
預り金	33,066	37,921	-4,855
流動負債合計	396,171	887,265	-491,094
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	396,171	887,265	-491,094
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 基金			
基金	0	0	0
2. 指定正味財産			
寄付金	1,008,480	2,948,173	-1,939,693
指定正味財産合計	1,008,480	2,948,173	-1,939,693
(うち特定資産への充当額)	1,008,480	2,948,173	-1,939,693
3. 一般正味財産			
(1) 代替基金	0	0	0
(2) その他一般正味財産	1,695,023	1,294,416	400,607
一般正味財産合計	1,695,023	1,294,416	400,607
(うち特定資産への充当額)	1,695,023	1,294,416	400,607
正味財産合計	2,703,503	4,242,589	-1,539,086
負債及び正味財産合計	3,099,674	5,129,854	-2,030,180

# 正味財産増減計算書

令和1年 6月 1日から令和2年 5月31日まで

公益社団法人アニマル・ドネーション

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	450,000	182,000	268,000
正会員受取会費	0	50,000	-50,000
賛助会員受取会費	450,000	132,000	318,000
事業収益	582,216	561,260	20,956
寄付支援事業収益	360,600	388,800	-28,200
セミナー事業収益	0	50,000	-50,000
リサーチ事業収益	221,616	122,460	99,156
受取寄付金	32,785,094	18,284,507	14,500,587
受取寄付金	23,845,401	15,229,680	8,615,721
受取寄付金振替額	8,939,693	3,054,827	5,884,866
雑収益	55	55	0
受取利息	55	55	0
経常収益計	33,817,365	19,027,822	14,789,543
(2) 経常費用			
事業費	28,691,362	17,460,126	11,231,236
会議費	58,475	359,715	-301,240
旅費交通費	102,969	815,580	-712,611
通信運搬費	81,834	293,056	-211,222
広告宣伝費	1,128,080	2,308,936	-1,180,856
消耗品費	41,078	284,556	-243,478
賃借料	5,248	0	5,248
保険料	0	22,500	-22,500
租税公課	1,200	400	800
支払寄付金	26,154,078	12,596,294	13,557,784
支払報酬	45,300	27,000	18,300
委託費	0	14,040	-14,040
支払手数料	1,069,860	738,049	331,811
雑費	3,240	0	3,240
管理費	4,725,396	3,457,007	1,268,389
会議費	5,438	145,757	-140,319
旅費交通費	37,768	40,876	-3,108
通信運搬費	261,741	319,771	-58,030
消耗品費	48,082	134,591	-86,509
地代家賃	162,300	206,958	-44,658
保険料	29,000	0	29,000
租税公課	500	500	0
支払報酬	765,985	988,800	-222,815
委託費	3,320,260	1,370,000	1,950,260
支払手数料	94,322	213,790	-119,468
雑費	0	35,964	-35,964
経常費用計	33,416,758	20,917,133	12,499,625
評価損益等調整前当期経常増減額	400,607	-1,889,311	2,289,918
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	400,607	-1,889,311	2,289,918
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	400,607	-1,889,311	2,289,918
法人税、住民税及び事業税	0	0	0
当期一般正味財産増減額	400,607	-1,889,311	2,289,918
一般正味財産期首残高	1,294,416	3,183,727	-1,889,311
一般正味財産期末残高	1,695,023	1,294,416	400,607
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	7,000,000	6,003,000	997,000
受取寄付金	7,000,000	6,003,000	997,000
一般正味財産への振替額	-8,939,693	-3,054,827	-5,884,866
一般正味財産への振額	-8,939,693	-3,054,827	-5,884,866
当期指定正味財産増減額	-1,939,693	2,948,173	-4,887,866
指定正味財産期首残高	2,948,173	0	2,948,173
指定正味財産期末残高	1,008,480	2,948,173	-1,939,693
III 基金増減の部			
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	0	0	0
基金期末残高	0	0	0
IV 正味財産期末残高	2,703,503	4,242,589	-1,539,086

# 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表に対する注記に記載している。
2. 引当金の明細  
該当事項なし



# 財務諸表に対する注記

## 1. 重要な会計方針

### (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

## 2. 基本財産及び特定資産の増減額及び残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
医療積立預金	2,948,173	7,000,000	8,939,693	1,008,480
WEBサイト構築準備金	387,600	0	387,600	0
情報管理システム構築計画積立預金	200,000	0	200,000	0
WEBサイト再構築積立預金	800,000	0	554,354	245,646
システム再構築積立預金	0	1,200,000	0	1,200,000
遺贈関連積立預金	0	400,000	0	400,000
合 計	4,335,773	8,600,000	10,081,647	2,854,126

## 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定 正味財産から の充当額)	(うち一般 正味財産から の充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
医療積立預金	1,008,480	1,008,480	0	0
WEBサイト再構築積立預金	245,646	0	245,646	0
システム再構築積立預金	1,200,000	0	1,049,377	150,623
遺贈関連積立預金	400,000	0	400,000	0
合 計	2,854,126	1,008,480	1,695,023	150,623

## 4. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
受取寄付金計上による振替額	8,939,693
合 計	8,939,693

# 財産目録

令和2年 5月31日現在

公益社団法人アニマル・ドネーション

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金	手元保管	運転資金として	36,831
	預金	普通預金		208,717
		三井住友銀行広尾支店		207,717
		ゆうちょ銀行		1,000
	流動資産合計			245,548
(固定資産)				
	特定資産			
	医療積立預金	三井住友銀行広尾支店	助成事業の積立資産である	121,004
	医療積立預金	ジャパンネット銀行	助成事業の積立資産である	887,476
	WEBサイト再構築積立預金	三井住友銀行広尾支店	助成事業の積立資産である	245,646
	システム再構築積立預金	三井住友銀行広尾支店	助成事業の積立資産である	1,200,000
	遺贈関連積立預金	三井住友銀行広尾支店	助成事業の積立資産である	400,000
	固定資産合計			2,854,126
	資産合計			3,099,674
(流動負債)				
	未払金			363,105
	(株)ゴーフォックス		サーバー運用保守	55,000
	(株)Sabeevo		サイト運用保守	30,000
	山本和子		広告等テレクション代	30,000
	浅井暁子		営業事務委託費	34,030
	(合)ゴロゴロウレシーナ		バックオフィス委託費	120,000
	(株)リンク		メール利用料	5,500
	GMOペイメントゲートウェイ(株)		決済システム利用料	85,927
	未精算経費			2,648
	預り金			33,066
	源泉所得税			33,066
	流動負債合計			396,171
	負債合計			396,171
	正味財産			2,703,503